

出題分析		
試験時間 60分	配点 60点	大問数 6題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>問題数・各大問の時代範囲は、例年とほぼ同様であった。記号問題では「2 つマークせよ」の問題が昨年から 2 問増えて 4 問、「なければ 6 をマークせよ」の形式は 1 問増えて 4 問となった。小論述問題は、例年通り戦後範囲で 1 問 30 字の標準的な内容のもの。史料による出題は例年通り複数大問で見られ、特に中世・近世範囲には史料の読み取り問題もあり、解答には時間を要しただろう。全体を見渡すと、標準的な問題も見られる一方で、古文的な読解力を求められる史料問題や細かい知識を問われる難問が一定数見られ、難易度は昨年よりやや難化したと言えるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	古代の東北支配	古墳～平安時代初期までの政治・社会を中心に問われた。問 D. 消去法で解答したい。龍角寺岩屋古墳（千葉県）は終末期古墳としては最大級の方墳である。問 F. 空欄リ（雄勝城）はやや細かいが、他の選択肢の徳丹城と志波城が造営年代から不適と判断できるだろう。問 J. リード文に該当の情報が記述されているため、そこから正誤を判断する。	標準
2	御成敗式目（史料）	4 つの史料とその解説文をもとに、鎌倉時代の政治に関して問われた。問 C. 史料Ⅱは、地頭が徴収した年貢を荘園領主に納めないことについて述べている。問 E. 史料Ⅲには、将軍あるいは政子によって与えられた御家人の所領は、本主（元の持ち主）が取り戻そうと訴訟を起こしても原則これを認めないという内容が書かれている。問 J. いずれも 5 代執権北条時頼の時の出来事であり、並び替えはやや難。	やや難

3	近世における女性の政治関与 (史料)	江戸時代の政治に関して、史料考察も含む出題であった。問 B. 史料 1 は寛文年間 (4 代将軍家綱の時) に出されており、「前将軍」は徳川家光を指す。問 D. リード文 4 段落目の内容および史料 1 の 2 つ目の箇条から推測する。問 E. 空欄ニには 11 代将軍の家斉が入る。リード文中の「19 世紀前半」が手掛かりにはなるが、家斉・家慶ともに該当する可能性があり、やや難。選択肢と合わせて考える。問 F. 大学側から全員正解とする旨の発表があった。出題者は a・b を正文と想定したと思われるが、「島津重豪が藩主であった時代」は 1755~87 年で、調所広郷主導による藩政改革の内容はこれに該当しない。問 I. X・Z の前後関係に迷うが、X のうちの東蝦夷地の直轄がラクスマン来航を受けてのものであることを想起したい。問 J. 史料 2 の内容を純粹に読み取る必要があり、確信を持って判断しづらいだろう。	標準
4	立憲政体の成立 (史料)	自由民権運動の展開を中心に明治期の政治が問われた。問 B. やや難。中江篤介は中江兆民の本名。問 D. 3 と 5 で迷う。4 は加藤弘之が後年、社会進化論の立場から天賦人權論を批判する立場に転じたことに注意。なお、3 は西周のこと。加藤は東京大学初代総理を務めたことが知られる。問 E. 情報が細かく、大井憲太郎を導くのは難。問 F. 難。問 J. 4 が誤りであることに注意。女性の選挙権が認められた 1945 年 12 月の衆議院議員選挙法改正は、大日本帝国憲法下のこと (日本国憲法は 1947 年 5 月から施行)。	やや難

5	近代の財政・金融	商学部では頻出の明治～昭和戦前期の経済に関する出題。問 E. 金本位制に関する理解が問われた。b は、輸出増加に効果があるのは銀本位制を採用した場合であることに注意。問 G. 1 の立憲民政党と誤らないようにしたい。第 1 次若槻内閣であるから、憲政会が正しい。問 J. モラトリアムとも言うが、「漢字 5 字」の指定がある。	標準
6	第二次世界大戦直後の政治・社会	占領期の政治・経済・社会について問われた。問 B. やや細かいが、難関私大受験者であれば押さえておきたい数字。問 C. 難。日本国憲法第 38 条では、黙秘権が規定されている。問 E. 日本進歩党の初代総裁は町田忠治。中島知久平は日中戦争期に分裂していた立憲政友会で総裁を務めた。なお、2018 年にも同趣旨の出題がなされている。問 F. 難。勤労の義務を規定しているのは 28 条ではなく 27 条。問 G. 新民法の特徴を述べる小論述問題。戸主権の廃止のほか男女平等の婚姻や財産の均分相続といった点に触れることもできるだろう。問 I. 「生産性向上運動」は、生産管理闘争の誤り。	やや難

合格のための学習法

早稲田大学商学部の特徴である正誤文判定問題は、教科書・用語集の説明に即して基本事項の理解を深めることが最も有効である。一部判断が困難な難問も見られるが、全体から見れば多くはないので、ある程度割りきって対応することも必要であろう。史料は初見史料も出題されるが、まずは教科書の史料に一通り目を通して史料を読むことに慣れておきたい。小論述問題については、近現代の経済史が問われることが多いので理解を深めておく必要があり、過去問演習を通じて、教科書の説明を基本に解答をまとめる訓練を積んでおこう。